プロジェクトリーダー：瀬戸市立図書館

事　業　実　績　調　書

（1）プロジェクト名	高校生読書活動推進プロジェクト

（2）プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）

・このプロジェクトでは、大学コンソーシアムせと加盟大学の学生運営委員が、若い感性を活かしたアイディアを取り入れてイベント等の企画運営を行い、他大学との交流の機会となった。また、イベントを通して高校生や地域住民との関わりが生まれ、地域社会への貢献の場となった。
・YouTube を使ってビブリオバトルの動画を配信したり、Twitter で学生運営委員のおすすめ本の紹介を投稿したりと、SNS をうまく活用して読書啓発を行うことができた。
・学生運営委員が思いを込めて作成した読書啓発冊子「降葉のしおり」を市内の高校生全員に配布することができた。手に取ってもらえるように見栄えにこだわったデザインになっているので、多くの高校生が冊子を読んで本に興味を持ってくれたのではと期待している
・高校にスケジュール確認を行いビブリオバトルの開催日を決定し、高校の先生方と連絡を取り合った結果、昨年と比べて多くの高校生が発表者としてビブリオバトルに参加してくれた。そして大変活気のあるビブリオバトルとなった。

（3）プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）

4月1日～6月10日　学生運営委員の募集・学生運営委員の決定
愛知工業大学1名　金城学院大学2名　名古屋学院大学2名　名古屋産業大学2名
南山大学2名（合計9名））

5月16日　第1回プロジェクトメンバー打ち合わせ
＜開催方法＞Zoomによるオンライン会議
＜参加者＞プロジェクトメンバー5名
＜内容＞スケジュール、学生運営委員の活動内容、開催内容等の検討

7月17日　第1回学生運営委員会
＜開催方法＞Zoomによるオンライン会議
＜参加者＞学生6名、プロジェクトメンバー5名
＜内容＞ビブリオバトルの概要説明、活動内容の確認等

8月15日　第2回学生運営委員会
＜会場＞図書館　集会室
＜参加者＞現地：学生5名、オンライン：1名
＜内容＞役割分担、ビブリオバトル記念品の内容検討、高校生読書活動啓発グッズの検討、SNSを使った広報活動の検討、高校生向けおすすめ本の選書

10月30日　「大学コンソーシアムせと 高校生ビブリオバトル2022」
＜会場＞パルティせと４階　マルチメディアルーム
＜参加者＞50名
※内訳：学生運営委員9名、発表者6名、事務局3名、プロジェクトメンバー5名、参観者27名

＜特別審査員＞瀬戸市出身の作家 青山美智子氏
＜内容＞ビブリオバトルの実施、青山美智子氏によるトークショー

10月30日　第2回プロジェクトメンバー打ち合わせ・第3回学生運営委員会（合同開催）
＜会場＞パルティせと４階　マルチメディアルーム
＜参加者＞ プロジェクトメンバー5名、学生運営委員5名
＜内容＞ 反省事項等

10月30日　「大学コンソーシアムせと 高校生ビブリオバトル2022」をYouTubeで配信開始
＜内容＞YouTubeチャンネル「瀬戸市立図書館」でビブリオバトルの動画を一般公開
＜公開期間＞3月31日まで

10月30日　公式Twitter「大学コンソーシアムせと高校生読書活動推進プロジェクト学生運営委員会2022」の運用開始
＜内容＞学生運営委員がおすすめ本の紹介を発信
＜運用期間＞2 月 28 日まで

11月10日・11日　読書啓発グッズの配布
＜内容＞学生運営委員がデザインした冊子「降葉のしおり」を市内高校生に配布
＜配布先＞瀬戸高等学校、瀬戸北総合高等学校、瀬戸工科高等学校、瀬戸西高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、聖霊高等学校

2月22日　2022年度「大学コンソーシアムせと」活動成果報告会
＜会場＞瀬戸蔵4階　多目的ホール
＜発表者＞学生運営委員1名
＜内容＞今年度事業の活動成果報告

（4）プロジェクトの今後の課題と展望

ビブリオバトル参観者にアンケートを行った結果、中学生～大学生の参観が少ないことが分かった。高校生に関しては、瀬戸市内の公立高校４校、私立高校２校に通う高校生全員に参観募集チラシを配布したが、高校生の参観者は０名となってしまった。今後は、SNS を使って PR を行うなど PR 方法の改善を検討するなど、若年層の参観者数の増加を目指したい。

また、瀬戸市立図書館では長期にわたって継続的にビブリオバトルを開催している。その結果、地域にビブリオバトルが定着してきていると考える。今後も継続して開催することで、ビブリオバトルに対する地域社会の関心を高め、読書や図書館の魅力を発信する機会としたい。